

埼玉県屋内 50 m 水泳場及びスポーツ科学拠点施設

整備地選定委員会報告書（案）

令和 3 年 3 月 日

埼玉県屋内 50 m 水泳場及びスポーツ科学拠点施設整備地選定委員会

目次

1	検討の視点	1
2	候補地の評価	2
3	整備施設と候補地の考え方	3
4	分離設置の考え方	5
5	委員会からの提言	7
6	終わりに	9

別紙

- 1 候補地の比較（結果）
- 2 地元市提案資料
- 3 整備地選定委員会設置要綱

1 検討の視点

当委員会は、埼玉県が検討を進めている屋内50m水泳場及びスポーツ科学拠点施設（以下「両施設」という。）の整備地選定に向けた検討を行うため、令和2年12月1日に設置された。

両施設については、これまで有識者会議において機能や施設、整備地などの検討を行い、両施設の一体的整備や周辺のまちづくり、地元市との協働の在り方などが提言された（令和2年11月30日知事提出）。

当委員会では有識者会議の提言を踏まえ、スポーツ振興を通じた埼玉県の発展のため、「県域全体を見据えた有効性」「今後の埼玉を見据えた将来性」「県民全体の有益性」の3つの視点から、検討を行った。

2 候補地の評価

(1) 評価のポイント

評価に向けて、現地視察や地元市からのプレゼンテーション、事務局による聞き取りなどを行い、「1 検討の視点」を踏まえ、以下の5つの観点で評価を行った。

- ①スポーツ・健康を核とした街づくり、賑わいづくり
- ②多様なスポーツ・健康増進に寄与するための各種運動施設との連携
- ③県民の利便性の向上
- ④県民負担の抑制
- ⑤その他個別の課題

(2) 評価結果

評価結果を別紙1「候補地の比較」にて整理したところ、主な評価のポイントとして以下が挙げられた。

①川口市神根運動場の主な評価

- ・水泳熱が高く、市と連動した県南の拠点づくりの将来性が期待できる。
- ・市有地の無償貸与により土地取得の費用負担なく整備ができるとともに、県有地の活用可能性が生まれる。

②上尾運動公園の主な評価

- ・多様でレベルの高い各種スポーツ施設との連携・連動により競技力向上が図れる。
- ・上尾運動公園の再編整備と連携した収益事業の展開により収益性の向上が期待できる。

3 整備施設と候補地の考え方

「2 候補地の評価」を踏まえ、両施設の役割等を詳細に検討し、それぞれの最適な候補地を選定した。

(1) 屋内50m水泳場

①施設の役割等

- ・国内主要大会の開催が可能な施設を目指しており、大会開催を想定した選手の動線や控え場所の確保の他、大規模大会開催のための運営ノウハウなども必要となる。
- ・水泳の競技力向上に資するため、年間を通して水泳の練習ができるとともに、スポーツ科学に基づく支援が行える設備を備えたものとする。
- ・子供から大人まで県民が広く利用できる施設となるよう、水泳の競技者だけでなく、多くの県民が水泳に親しむ施設を目指す。

②候補地の考え方

以下の理由から、候補地は川口市神根運動場が最適地であると考えられる。

- ・川口市は市内の水泳場で2度の国体や県内主要大会の開催を担ってきており、県内水泳界をリードしてきた歴史と実績がある地域であり、国内主要大会の開催にあたり、これまでの大会開催の実績やノウハウを生かすことが出来る。
- ・川口市内には8つの市営プールが整備されており、子供から大人まで多くの利用者が訪れるなど市内に水泳文化が根付く街として、屋内50m水泳場を中心に水泳に親しむ地域性を生かした街づくりが期待される。
- ・川口市から市有地の無償貸与や市の総合運動場の整備が提案されており、市の土地を利用することで、土地取得費用を負担せずに、健康スポーツを基盤にした県南の拠点づくりを見据えた将来性がある。

(2) スポーツ科学拠点施設

①施設の役割等

- ・ 県の総合スポーツ拠点として多様な競技の競技力向上に資する施設であることが求められる。
- ・ スポーツ科学の普及の拠点として、スポーツ科学の知見を各競技団体・市町村に広く波及させる役割を担う。
- ・ 一部のアスリートだけではなく、より多くの県民がこの施設の恩恵に浴することが出来るように、県民が利用しやすく健康づくりに寄与する施設を目指す。

②候補地の考え方

以下の理由から、候補地は上尾運動公園が最適地であると考えられる。

- ・ 昭和42年の国体の主会場となった陸上競技場や体育館、平成16年の国体会場となった武道館など多くのスポーツ施設が集積しており、長きにわたり県内スポーツをリードしてきた。
- ・ アスリートが試合やトレーニングで利用できるスポーツ施設が集積しており、競技を行う場での実践的なトレーニングや試合を想定した測定、異なる競技の連携によるトレーニング方法の共有や交流によるリラクゼーションなど、多様なアスリートが集うスポーツの総合拠点として競技力向上の効果を高めることが可能である。
- ・ 上尾運動公園の再編整備と連携した整備とすることで普段スポーツに触れる機会の少ない公園利用者が様々なスポーツに触れる機会を作り出すことになり、賑わいの創出や県民利用の促進が期待される。

4 分離設置の考え方

県内全体を幅広く捉える視点から、それぞれの地元市の提案を活用し、施設の特徴を最大限生かすことが出来るとして、分離設置についても協議を行った結果、一体整備に比べ以下の優位性が確認された。

(1) 屋内50m水泳場とスポーツ科学拠点施設の連携

○屋内50m水泳場に水泳競技の競技力向上に必要なスポーツ科学設備を実装するとともに市の総合運動場と一体的に整備を行う事は、県と市の連携のモデルとなる。

○川口と上尾に分離設置される両施設がデジタル技術を活用し連携することは、今後のスポーツ科学拠点施設での県内スポーツ施設との連携のモデルとなる。このモデルを参考に県内の大学や市町村などとのネットワーク化を図ることで、スポーツ科学拠点施設で得られた知見を県内に行き届かせることが可能となる。

(2) 県民の利便性の向上

○健康づくりとスポーツにかかわる県の拠点が、それぞれ県南部と県中央部に整備されることで、より多くの県民の利便性が高まるとともに、県土の均衡ある発展につながる。

○地元市の提案を活用し、水泳が盛んな川口に屋内50m水泳場、多様なスポーツ施設がありアスリートが集まる上尾にスポーツ科学拠点施設を整備することで、それぞれ地域特性を生かした圏域での健康づくりとスポーツに関わる拠点づくりが進む。

(3) 整備費の抑制

- 屋内50m水泳場については、川口市が整備地の無償貸与及び周辺スポーツ施設の整備を提案しており、市の施設と一体的な整備をすることで、市の施設との相互利用など県単独で整備するよりも高い効果が期待される。

- 上尾運動公園の再編整備にあわせた賑わいづくり（収益性の拡大）や現「スポーツ総合センター」の利活用などにより費用の抑制が期待される。

- 川口市から無償貸与される土地を活用し、屋内50m水泳場を整備しつつ、上尾運動公園の県有地を有効活用することで、県内の拠点となる施設整備を同時に進められることになり、両施設を一カ所に整備するよりも県全体にとってより有益となる。

5 委員会からの提言

両施設の整備に当たっては以下の点に留意し検討いただきたい。

(1) 屋内50m水泳場

- 県と市の連携モデルとして市が整備する総合運動場との一体的な整備を進め、水泳の競技者だけでなく多くの県民が訪れる県南エリア全体を見据えたスポーツによる賑わい拠点づくりとする。
- 国内主要大会の開催や競技力向上のため、周辺施設との機能面での連携や施設の相互利用などが効果的に行える整備を求める。
- 人口の多い県南の地域性を生かし、多くの県民が訪れる施設とするため、周辺の賑わいの創出を行うとともに、防災機能を備えた地域の拠点となる施設とする。

(2) スポーツ科学拠点施設

- 県の総合スポーツ拠点として、県内全域のスポーツ施設を結ぶハブとして中核的な役割を担うため、県内スポーツ施設との連携・ネットワークを拡充するとともに、川口に整備する水泳場等のサテライト化を図る。
- 近年進化の著しいデジタル技術を積極的に取り入れ、スポーツ科学の知見に基づく測定や指導などが利用者の希望や特性に応じて、対面やオンラインなど様々な手法で可能となるような未来型の拠点施設とする。
- 県民全体へのスポーツ普及という観点から、上尾運動公園の再編整備と連携した賑わいづくりにより、アスリートだけでなく多くの県民に利用される施設とする。

両施設の整備にあたっては、コロナ禍における県の財政状況を鑑み、県民負担の抑制に留意するとともに、地元市からの要望を踏まえ、県民の期待に応えるため、地元市や周辺自治体と緊密に連携し、早期の完成を目指していただきたい。

6 終わりに

本委員会では、現地視察を含め5回にわたり幅広い観点から議論を行い、地元市からの熱意あるプレゼンテーションを踏まえ、両施設の最適な整備地として、屋内50m水泳場は川口市神根運動場、スポーツ科学拠点施設は上尾運動公園との結論を得た。

両施設の整備は水泳関係者やスポーツ関係者の悲願であり、スポーツ振興を通じた埼玉県発展につながるものである。

今後の詳細な計画の策定に当たっては、地元市との具体的な連携方策や県民の利便性の確保、整備費や運営費の在り方などもしっかりと検討する必要がある。

両施設が早期に整備され本県スポーツの競技力向上と県民の健康増進を図る新たなスポーツ拠点が創造されることを願い、本委員会からの報告とする。